

# 音楽科学習指導案

指導者 松前良昌

**日時** 平成24年12月1日(土) 第3校時(13:00~13:50)  
**年組** 中学校第2学年1組 計40名(男子20名, 女子20名)  
**場所** 中学校音楽教室  
**題材** 合唱表現を工夫しよう

混声合唱とピアノのための「祈りの虹」から IV. “ヒロシマにかける虹”

作詩: 津田定雄 作曲: 新実徳英 校内用編曲: 松前良昌

## 題材について

本題材では、歌詞の内容や曲想を理解し、味わうことによって、生徒自らが自己のイメージや感情を意識して曲にふさわしい合唱表現を工夫していくことをねらいとしている。教材の“ヒロシマにかける虹”は1984年に大阪大学男声合唱団によって初演された。翌年、混声合唱版が初演され、近年は大学や一般の合唱団がコンクール等で歌うなど、中学生がクラス合唱で歌うには難易度の高い楽曲である。作曲に際して新実氏は、「日頃からの怒りと願いをこの曲にぶつけた。怒りとは、殺戮のための道具ではないあまたの核兵器・通常兵器に対する、またそれらを作らしむる人の人を信ずることのできぬ心への怒りである。そして願いとは平和への願い、人類の浄化への願いである。」とレコードのライナーノートに綴っている。単純とは言い難い和音のア・カペラ部分、複雑に絡み合うメロディー、難解な詩など、今の中学生には決して容易とは言えないが、ヒロシマに生きる生徒として、自分たちで解釈し強いメッセージを発信しながら歌唱表現する限界に挑む価値のある名曲である。なお、ここでは授業者自らが中学生の音域に合わせて、手を加えた楽譜を使用することで、少しばかり歌いやすくしている。

本校の生徒は音楽に対して興味・関心をもっている生徒が多い。特に、9月から実施した校内合唱コンクールの練習では、2年生は生徒自ら授業で取り組む前に放課後等にパート練習をして、授業では全体練習の時間を確保できるようにするなど、意欲的かつ計画的・効率的に取り組んでいる。また、縦割り交流では、上級生のリーダーが実際に1年生に指導している。これらのことは1年生にとってよい模範となっている。授業では、指導に対しての反応もよく、自ら考えて表現しようとしたり、自分で詩の意味や曲の構成について調べたりする生徒もいる。本校では、個に応じた音域、バランスなどを考慮するとともに、より豊かな音の重なりをめざして第2学年から混声四部合唱に取り組んでいる。その結果、合唱にふさわしい発声が次第に身についており、豊かな響きをもった質の高い演奏となってきている。しかし、技能面の向上の一方で、楽曲のどの部分でどの技能を活かして合唱表現を工夫するかを主体的に考えることは、十分には出来ていないと考えている。

合唱表現には、作品に込められた作詩・作曲者の思いを汲み取り、解釈し、歌声で表すこと、つまり思考・判断し、表現することが求められる。その際に、身につけた技能をどう活かすかを考え、どれを選択するか判断し、よりよい表現をするために実際に利用できることが必要となる。そこで、合唱スキルの効果的な指導法として比喩的表現を用いた指示を織り交ぜることで技能の向上をめざすとともに、よりよい表現をめざして生徒が主体的に技能を活用して合唱表現できるよう指導していきたい。さらには練習方法や形態の工夫により、生徒の思考力や判断力が求められる場を増やし、高めさせていきたい。そして他のパートとのかかわりを意識させるとともに、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きの調和を感じ取らせ、曲にふさわしい豊かな表現ができるよう指導したい。

## 指導目標

1. 生徒自ら発声や音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して合唱表現できるようにする。
2. 歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取らせ、表現を工夫できるようにする。

## 指導計画

1. パート別および全体練習 ----- 4時間
2. 全体練習 ----- 3時間
3. まとめの表現 ----- 2時間（本時はその2時間目）

## 本時の目標

1. 自分の声の状態を理解し、音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して歌唱することができる。
2. 歌詞の内容や曲想を考えながら、歌詞の意味が伝わる表現を工夫して歌唱することができる。

## 「学びのつながり」の視点

小・中学校音楽科では音楽活動を重視し、活動を通して、自分の思いや意図を演奏に表す方法を一つひとつ身につけさせることが重要であると考えている。学年が進むにつれて、単なる自分の思いや意図から、楽曲の理解を深めて曲想を活かした表現をするための自分の思いや意図へと深化する。さらには、相手に伝える、つまり聴く側を意識した演奏が出来るようになってくる。本授業では、歌唱指導において、歌詞の意味や内容、曲想、音楽を形づくっている要素を根拠として、身につけた音楽的スキルを作品のどの部分でどう利用するかを自ら思考・判断しながら、自分の思いや意図を聴き手に伝えるような豊かな表現ができるようしたいと考える。

## 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆ 評価）
1. パート別練習 <input type="checkbox"/> 発声や音程、リズムなどに注意して、パート別に活動する。 <input type="checkbox"/> パートリーダーが中心となって活動する。	○表現を工夫する手だてを助言する。 ・腹式呼吸になっているか。 ・出だしの音からきちんと歌っているか。 ・発声法を意識して歌っているか。 ・音程を正しく歌おうとしているか。 ・強弱などを考えて歌おうとしているか。など ◆自分の声の状態を理解しながら、音楽的スキルを活かして歌うことができるか。 <b>【音楽表現の技能】</b>
2. 全体練習 <input type="checkbox"/> 生徒指揮、後に教師が指揮をする。 <input type="checkbox"/> 発声や音程・リズムなどに注意して歌う。 <input type="checkbox"/> お互いの演奏を聴き合い、曲にふさわしい表現になっているかどうかを発表し合う。 ・ローテーション形式 など	○演奏の状態に応じて助言をする。 ・呼吸法や発声法に気をつけているか。 ・リズム、音程、強弱などに気をつけているか。 ・子音の発音を工夫しようとしているか。 ・パートの声を揃えることを意識しているか。

<p>□歌詞の内容をもとに、曲想に合った合唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指揮の指示，パートごとの相談 など</li> </ul> <p>□部分ごとに曲想の変化をつけて歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のパートを聴いて，ハーモニーやバランスをよくしようとしているか。</li> <li>・言葉の意味を伝えようとしているか。</li> <li>・曲想を考えて歌おうとしているか。</li> <li>・聴衆を意識して歌おうとしているか。など</li> </ul> <p>○生徒の状況を常に把握することを意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れをスムーズにする。</li> <li>・声を休ませるタイミングに気をつける。</li> <li>・指示をする時に，一度にたくさんのことを言わない。</li> <li>・指示は，あえて抽象的に指示することで自分でどう工夫するかを考えさせるが，効果が表れにくい場合は，徐々にわかりやすく簡潔で具体的な指示をする。</li> <li>・今，何を指示するのが生徒にとって最も適切かを，常に考えて指示をする。</li> </ul> <p>◆歌詞の内容や曲想を考えながら，表現を工夫して歌唱することができるか。</p> <p style="text-align: right;">【音楽表現の創意工夫】</p>
<p>3. まとめ</p> <p>□通して歌う。</p>	<p>◆歌詞の内容や曲想を考えながら，表現を工夫して歌唱することができるか。</p> <p style="text-align: right;">【音楽表現の創意工夫】</p>

**参考文献** 津田定雄作詩・新実徳英作曲『混声とピアノのための「祈りの虹」』音楽之友社，1986.

松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法Ⅱ－正しい発声で歌えるために，比喩的表現を用いた歌唱指導を通して－」広島大学附属東雲中学校，2012.

松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的技能の効果的な指導法－正確な音程で歌えるために，自分自身の声を聴く試みを通して－」広島大学附属東雲中学校，2011.

三村真弓・松前良昌他『中学校・高等学校音楽科における聴取力育成プログラム開発のための基礎的研究－聴取力に着目した音楽科学力調査をとおして－』学部・附属学校共同研究紀要No. 39，広島大学学部・附属学校共同研究機構，2010.

参考資料 過去3年間の校内合唱コンクール 課題曲・各クラス自由曲

平成24(2012)年度

課題曲	虹色の明日 (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:二部合唱)	田中理恵子 作詩・作曲
1年1組	「11ぴきのネコ」合唱版 より 十一ぴきのネコが旅に出た 魚見えたか節 魚の子守唄 ノラネコ天国ソング	井上ひさし 作詞 / 青島広志 作曲
1年2組	混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」より ～故郷・朧月夜・われは海の子・村祭・雪～	文部省唱歌〔高野辰之作詩/岡野貞一作曲(一部)]/源田俊一郎 編曲
2年1組	混声合唱とピアノのための「祈りの虹」より IV. “ヒロシマにかける虹”	津田定雄 作詩 / 新実徳英 作曲
2年2組	REQUIEM K.626 より Lacrymosa (涙の日) Domine Jesu (主イエス)	Wolfgang Amadeus Mozart 作曲 / Franz Xaver Süßmayr 補作
1・2・3年3組	時を越えて	梅野知子 作詞・作曲
3年1組	混声合唱とピアノのための「この星の上で」より 今年	谷川俊太郎 作詩 / 松下 耕 作曲
3年2組	混声合唱とピアノのための曲集「初心のうた」より V. 泉のうた〔抜粋〕 IV. でなおすうた	木島 始 作詩 / 信長貴富 作曲

平成23(2011)年度

課題曲	大切なもの (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	山崎朋子 作詞・作曲
1年1組	合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」より 1.サーカスのうた 5.動物を殺せ 10.ぞうれっしゃよはしれ	小出隆司 原作 / 清水則雄 作詞 / 藤村記一郎 作曲
1年2組	混声合唱曲集「空に、樹に…」より 聞こえる	岩間芳樹 作詩 / 新実徳英 作曲
2年1組	混声合唱組曲「さる」より 十ぴきのねずみ さる	谷川俊太郎 作詩 / 北爪道夫 作曲
2年2組	混声合唱組曲「海の詩」より 1 海はなかった 5 航海	岩間芳樹 作詩 / 広瀬量平 作曲
1・2・3年3組	上を向いて歩こう	永 六輔 作詞 / 中村八大 作曲 / 牧戸太郎 編曲
3年1組	混声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」より 4. くちびるに歌を—Hab' ein Lied auf den Lippen—	ツェーザー・フライシュレン 作詩 / 信長貴富 訳・作曲
3年2組	混声合唱曲「季節へのまなざし」より 4. ゆめみる	伊藤海彦 作詩 / 荻久保和明 作曲

平成22(2010)年度

課題曲	虹をこえて (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	人見敬子 作詩・作曲
1年1組	AVE VERUM CORPUS 《聖体賛美歌》K.618	典礼聖歌集 / Wolfgang Amadeus Mozart 作曲
1年2組	混声合唱組曲「IN TERRA PAX」より V IN TERRA PAX (地に平和を)	鶴見正夫 作詩 / 荻久保和明 作曲
2年1組	混声合唱組曲「海鳥の詩」より 2. エトピリカ 4. 北の海鳥	更科源蔵 作詩 / 広瀬量平 作曲
2年2組	混声合唱組曲「ひとつの朝」より III ひとつの朝	片岡 輝 作詩 / 平吉毅州 作曲
1・2・3年3組	茜色の約束	水野良樹 作詩・作曲 / Tsing-moo 編曲
3年1組	混声合唱とピアノのための「新しい歌」より V 一詩人の最後の歌	H. アンデルセン 作詩 / 山室 静 訳詞 / 信長貴富 作曲
3年2組	混声合唱組曲「幼年連祷」より II 不眠 V 喪失	吉原幸子 作詩 / 新見徳英 作曲

※ 各クラスの課題曲・自由曲は、生徒の実態に合わせ、授業者が校内利用を目的に編曲している部分があります。